

原爆詩を朗読して

『おとうちゃん』この詩をみんなで何度も朗読した。１９６４年８月６日、あの日の広島を被爆者の痛みや苦しみ、悲しみや憎しみ、いろんな思いを少しだけ知ることができた。

朗読の説明をしてくれた梅屋さんが言っていた。他人の痛みは他人のものであり、原爆を体験した本人にしかわからないと。そうだと思った。でもわかろうとすること知ろうとすることは大切なことで一緒に考える時間が大切だと。

今この場で言葉にすることで平和への祈りを未来につなげることになると強く思いました。詩を書いた当時の小学生の伝えたかった思いが少しでも伝わればいいなと思います。この先、同じ思いをする人がいない平和な世界を願ってまた詩を朗読したいです。